里帰りして漁業を生業に

苓北岩かき生産部会
福田礼子、吉田千春

1．地域の概要

私たちの住む熊本県苓北町は、藍より青い海に囲まれた天草下島の北西端に位置し、西は天草灘（東シナ海）を、北は早崎瀬戸（有明海の入口）をのぞむ、美しい町である（図１）。澄んだ青い空、紺碧の海、そして水平線にゆったりと沈んでいく夕日、限りなくやさしい自然に包まれ、ゆるやかに時が流れている。

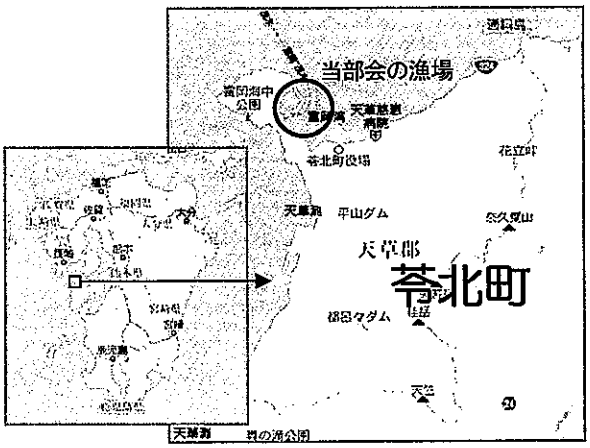


図１　苓北町の位置

2．漁業の概要

私たちが所属する天草漁協・苓北支所は、正組合員 158 人、準組合員 128 人の計 286 人で組織されている。

養殖漁業では、ひおうぎ貝及び真珠の養殖に加え、平成 17 年から県内初の岩かき養殖への取組が始まった。漁船漁業では、一本釣り、磯建網、潜水、採藻等が営まれている。

3．研究グループの組織と運営

苓北岩かき生産部会は、岩かき養殖の生産から販売までを行う漁業者の集まりで、20 歳代から 60 歳代まで幅広い年令の漁業者が、協力して養殖技術等の改善向上を行う会である。現在の部会員数は 13 名で、岩かきを新たな町の特産品に育てようと、日々積極的に取り組んでいるところである（図２）。

図２　苓北岩かき生産部会の顔ぶれ

4．研究・実践活動取組課題選定の動機

就職を機に私たちは故郷・苓北町を離れ、熊本市内でＯＬとして働いていた。その後は結婚するなど普通の生活を送っていたが、２人とも同じように、慣れ親しんだ故郷・苓北町で豊かな自然に包まれながらゆったり生活していきたいという思いに駆られ、里帰りすることにした。その決断に際しては子供の頃から馴染みのあった漁業が生業に対する不安を解消し、背中を後押ししてくれた。子供の頃から見てきた先輩漁業者である両親たちのように、早く一人前の漁業者として早く自立したいと思いつつ、漁業経験のない夫たちとともに着業した。

5．研究・実践活動状況及び成果

故郷へ戻り、漁業を始めた最初の頃は、漁業に馴染めない等の問題があったが、漁業者として先輩である両親のアドバイスを受ける等により徐々に馴染んでいけた。その後も、漁業に必要な技術の修得に苦労したり、暑い夏や寒い冬の屋外作業という漁業に付き物の苦労があったが、それらも周囲からのアドバイス等をきっかけにして徐々に慣れ、乗り越えることができた。

両親がしてきた仕事の苦労を実感すると、同業者である両親との親密さが増し、組織の絆が深まった（図３）。

図３　両親がしてきた仕事の苦労を実感し、世代間の連携協力の絆が深まった

また、私たち若手の里帰り着業は、親世代を活気づけることにもなった。「子どもたちが里帰りして着業したのだから、何か新しい収入源を」という親の思いから、県内初の岩かき養殖に取り組むこととなり、苓北岩かき生産部会の設立に至った（図４）。

そのような苦労を乗り越えた現在、新たな養殖種として取組を始めた岩かき養殖が順調に回り始めたことはすごく嬉しいことで、次代を担う漁業者としての自信にもつながった。

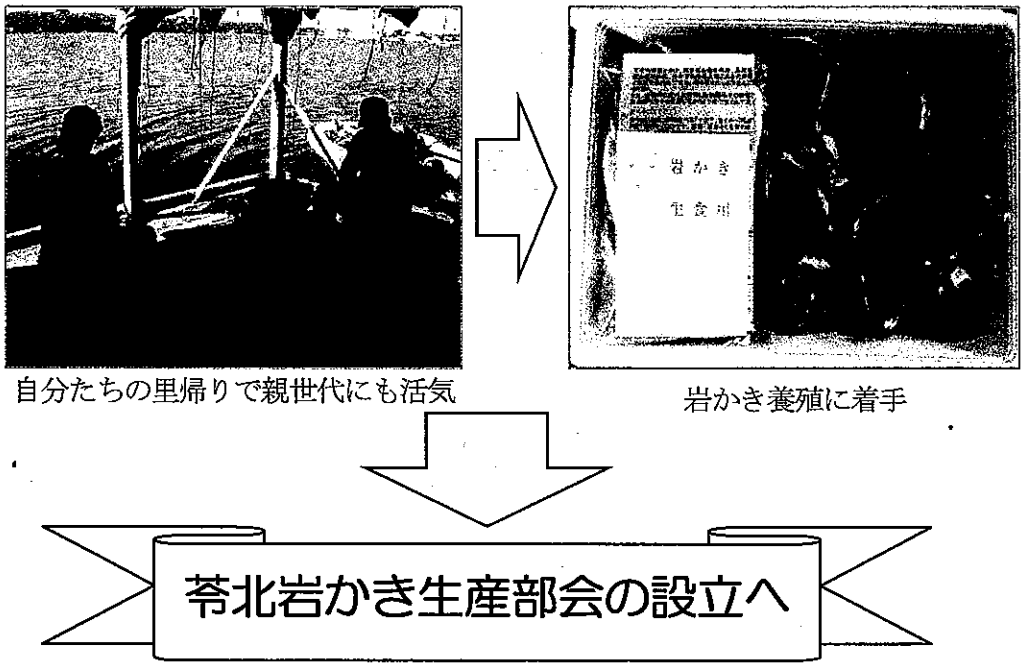


図４　苓北岩かき生産部会の設立経緯

また、より良い岩かきを作るために、出荷先である市場を訪ね、自分たちの作った岩かきに対する評価を収集した（図５）。

図５　出荷先市場での視察・情報収集

６．波及効果

自分たち若手の里帰り着業は、浜の元気回復につながったのではないかと思う（図６）。特に、新たな養殖種として取り組んだ岩かきは町の新たな特産品となり、岩かきを目当てに町を訪れる観光客も現れるなど、町の活性化に一役買えたと思う（図７～９）。

そして、そのことは私たちの自信を高めることにもなった。

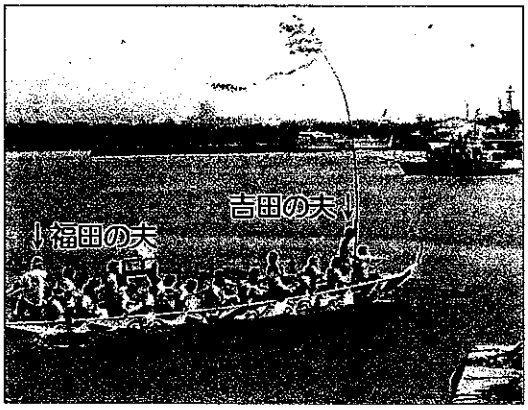


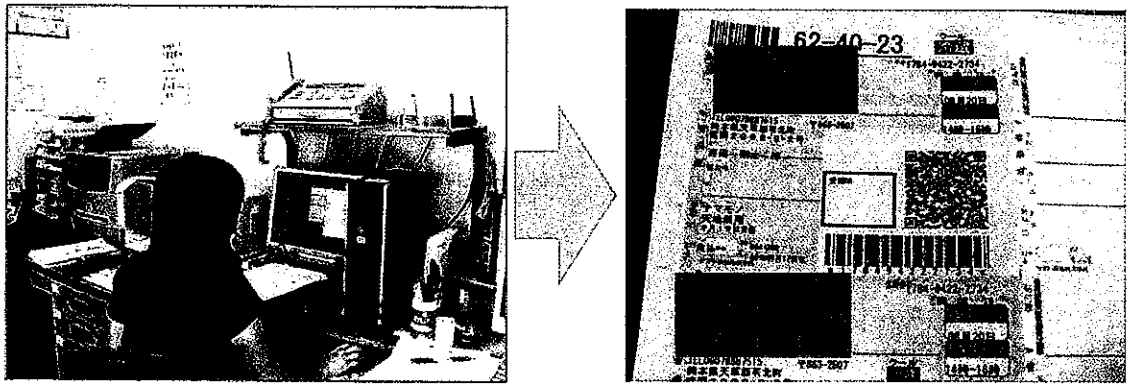
図６　浜の一大行事、ペーロン大会にも参加

図７　地元新聞でも紹介

図８　町の新たな特産品として地元情報テレビ番組で放送

図９　試食会では町長も大満足！

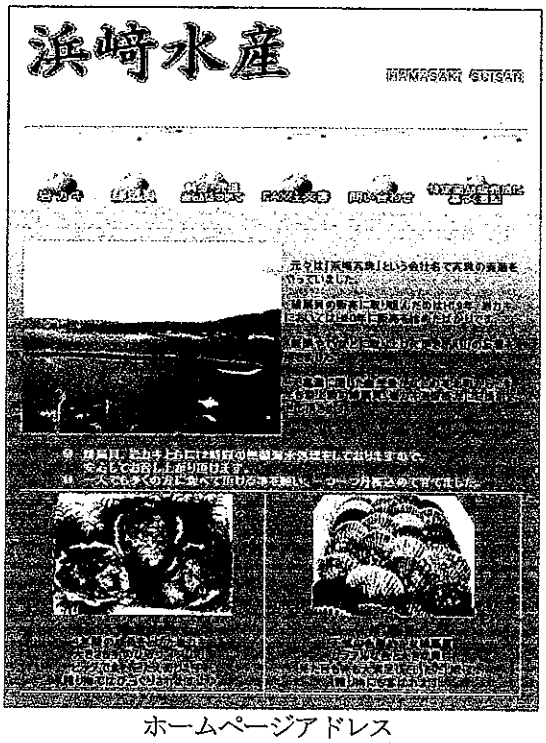
また、両親の支えを受けるだけでなく、自分たちの方が得意な技術等で何かできないか、という思いから、送り状をプリンターで印刷できるようにし、手書きの負担を軽減した（図 10）。



パソコンを使うＩＴ化は自分たちの方が得意！　　送り状の手書き負担を軽減！

図 10　自分たちの得意な技術で現場を改善

さらには、自分たちのホームページを立ち上げ、オンラインでの直接販売も可能にした（図 11）。



ホームページアドレス

http://hamasakisuisan.web.fc2.com/

ホームページアドレス

http://www6.ocn.ne.jp/~f-hiougi/

図 11　自分たちで立ち上げたホームページ

7．今後の課題や計画と問題点

平成 16 年から取り組み始めた岩かき養殖は、平成 20 年にようやく出荷に漕ぎ着けたばかりで、養殖経営の柱としては未熟である。今後は、先ず漁業者としての地盤を固めるべく、岩かき養殖を軌道に乗せ、寄せられる注文全てに応えられるよう、生産力の拡充を図る。それとともに、市場等の客観的な評価等を参考としつつ、女性ならではの視点も加えて、この「天草天領岩かき」を苓北町が誇るブランド水産物に育て上げたい（図 12）。

その上で、苓北町水産振興協議会や苓北町漁業担い手クラブの活動にも積極的に参加し、町の活性化に取り組むとともに、様々な町の組織と連携して、里帰り者や町外の者を苓北町に導き、定着させたい。苓北町の漁業者は、高齢化・後継者不足により年々減少を続けているが、浜の元気が少しでも戻るよう、今後は技術向上のための学習会等を開き、自分たちのような若手漁業者を増やして町や浜を活気付かせたい。

漁業者の減少に歯止めをかけるのは難しいと思うが、私たちにできることから始めたい。

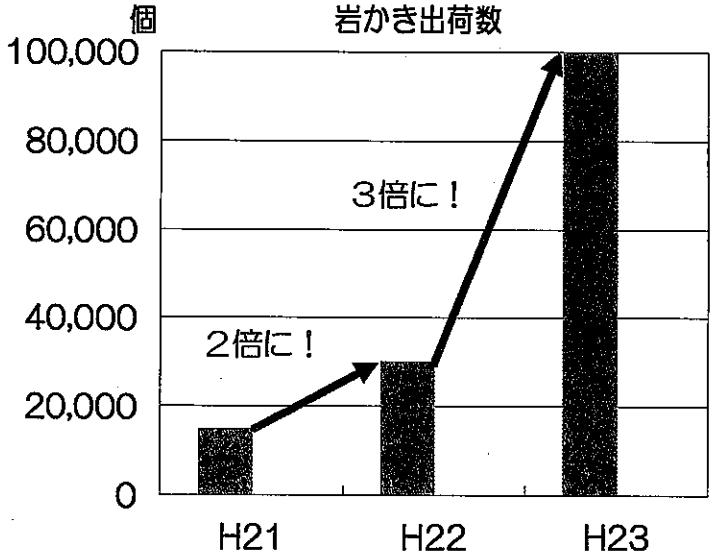


図 12　今後の岩かき生産計画